

2020年度CUC市民活動サポートプログラム自己点検・評価シート

評価項目	CUC市民活動サポートプログラム 実施組織による自己分析	自己分析に基づく社会貢献分科会の評価
1.開設の趣旨について	CUC市民活動サポートプログラムは、コミュニティビジネスや地域密着型ビジネス等の従事者、中間支援組織の活躍者等に、活動場所のいかに問わず幅広く通用する経営・マーケティングの知識とこれらを運用するスキルを提供することを開設の趣旨としている。2020年度CUC市民活動サポートプログラム参加者の多くが地域活動等を実施している中、総合アンケートの全体を通じた満足度の約9割が満足しているかつ、全ての授業において自身の活動に活かせるという意見があった。また、各科目の授業アンケートについても、修得したことを仕事等で活用している旨、受講生から報告があった。	開設の趣旨を十分に満たしていると判断できる。
2.教育の成果について	2020年度は全体で7科目（必修7科目）開講しており、正規履修生全員が全ての科目で一定の成績を収め履修証明書を手にした。また、修得したことを仕事等で活用している旨、受講生から報告があった。 なお、地域分析実習では地域課題解決のための分析力、エリアマーケティングではマーケティングの手法を駆使したブランディング戦略、非営利組織論・NPO法では非営利組織における理論と実践知識、クラウドソーシング活用演習、ファシリテーション演習、組織マネジメントと管理会計ではそれらの技術や能力等を提供している。	教育の成果について十分な教育効果があったと判断できる。
3.受講生に対する支援について	講義に関する支援については、指導教員が適宜対応を行っており、受講生からの申し出等は無かった。一方事務対応等について、新型コロナウイルス感染拡大の影響により急遽Microsoft Teamsを使用したオンラインでの開催に一部変更したことに伴い、システムの使用方法について十分な説明が出来ず、受講生が混乱してしまうことがあった。	評価項目について支援を実施したと言えるが、受講生への丁寧なシステム説明や当日のトラブル対応等の点で改善の余地があるため、今後の工夫・改善が必要である。
4.自己点検の環境について	2020年度より各科目の終了後及び全授業の終了後に授業アンケートや総合アンケートを実施している。また、外部の方々を招聘し開催している社会貢献分科会において、アンケート結果等を参考にプログラムに関する意見を頂戴し、必要に応じて次年度以降のプログラム運営に反映させることとしている。	十分に自己点検の環境について整備されていると判断できる。
5.広報活動について	2020年度は本学ホームページへの掲載、ポイントパーイーちかわ新聞の広告掲載、地域新聞の広告掲載、市川市ボランティア・NPO課のメールマガジン配信等の広報活動を行った。また、本学教職員による勧誘活動も行うと共に、外部講師の方にも勧誘活動を行っていただいた。 結果、定員数10名のところ、正規履修生12名、部分履修生3名の申し込みがあった。	概ね十分な広報活動を実施していると言えるが、一部、より効果的な広報活動のために、ターゲットを決めた上で適切な広報を行うといった点で改善の余地があるため、今後の工夫・改善が必要である。
6.施設等の設備について	施設環境については、講座開始後一定期間新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、教室以外の大学諸施設の利用を停止していたが、感染拡大の状況を鑑みつつ、第2学期中に図書館等の利用を開始した。 また、対面授業時には机稼働式の教室を使用することで、双方向型授業やグループワーク等に対応している。	十分に施設等の設備について適切に運用されていると判断できる。